

## アンケート結果 まとめ

### 1 本調査の概要

- ① 回答数 194名(内 WEB回答179名／紙アンケート回答15名)
- ② 調査期間 令和5年1月20日～2月20日
- ③ 調査方法 URL、QR コードによるWEBの回答専用フォームまたは公共施設(市役所本庁舎、永山・関戸各公民館、市民活動・交流センター、多摩市立複合文化施設)5か所におけるアンケート用紙設置にて回答を依頼

### 2 アンケート結果からの考察

- ①「問1 あなたの年齢をおうかがいします。」について  
⇒18歳～20歳代から60歳代を中心にバランスよく回答して頂いている。
- ②「問2 あなたは多摩市とどのような関わりがありますか。」について  
⇒市内で働いている、市内に居住している方たちからの回答が多かった。その他は6件であり、WEBアンケートで実施したが、市内に関わりがない人からの回答はほぼなかったと判断できる。
- ③「問3 文化芸術関連団体に加入していますか。」について  
⇒86%が「いいえ」と回答しており、文化芸術関連団体に加入していない方からの回答が多くを占めていることがわかる。
- ④「問4 この1年以内に触れた文化芸術」、「問 4-1 文化芸術の触れ方」、「問 4-2 文化芸術に触れた場所」について  
⇒問4、問4-1、問 4-2 の回答をみると、多くの方が、映画やポピュラー音楽などの身近な文化芸術を、市外で、ライブ配信を含まないリアルな鑑賞をしていると判断できる。
- ⑤「問 5 今後、特にどのように文化芸術に触れていきたいですか。」について  
⇒コロナ禍でライブ配信が広まったにも関わらず、ライブ配信を含まない鑑賞を望む声が多い。一方、ライブ配信鑑賞は9件、ライブ配信(発信)2件であり、リアルな鑑賞、参加・体験が望まれていると判断できる。
- ⑥「問 6 文化芸術に触れるための情報を主に何で得ていますか？」について  
⇒問4・問5から、リアルな鑑賞や参加・体験が望まれている一方、情報はインターネットから得ているとの回答が大多数であった。

⑦「問 7 どうしたら、文化芸術を身近に感じたり、触れやすくなると思いますか。」について  
⇒1位が「多様な文化芸術イベントがいろいろな場所で行われている」、2位が「日常で文化芸術に自然と触れられる街になっている」、3位が「文化芸術が誰にでも開かれ、様々な文化芸術の参加・体験・鑑賞を行うことができる」とあった。

これらのことより、誰もが自然に無意識のうちに、身近で日常的に様々な文化芸術に触れられることが重要であると判断できる。

一方、「乳幼児の時から、継続的に文化芸術活動に触れている」「人づてに参加、体験、鑑賞に誘われる機会がある」は回答が少なく、意図的な触れ方は求められていないことがわかる。

⑧「問 8 子どもの豊かな文化芸術体験に必要なことは何だと思いますか。」について  
⇒1位が「学校における文化芸術体験を充実させること」であり、学校における文化芸術への役割を期待していることがわかる。また、2位が「子ども達にとって文化芸術体験を行うことが大切であることを、保護者が理解していること」であり、保護者の役割の重要性を求めていることがわかる。

一方で、「子ども達が地域に出て文化芸術体験を行う機会を充実させること」「地域の人々による子ども向けの文化芸術体験を充実させること」への回答が少なく、地域に文化芸術を求める意見が少ないことがわかる。

⑨「問 9 市民主体で文化芸術を振興していくために必要なことは何だと思いますか。」について

⇒1位が「文化芸術活動をこれから始めようとしている人が、身につけるための学ぶ場、経験できる場があること」であり、最初の一步を踏み出しやすくするか、始められやすいかが重要であると考え意見が多いことがわかる。

一方で、「市民が提案し、活用される仕組みがあること」「国や都、民間の文化芸術に関する助成等の情報をまとめ、発信すること」への回答が少なく、問 3 において文化芸術関連団体に加入していない人が86%占めることから、文化芸術に精通していない、日ごろから活動を頻繁に行っていない層の回答が多く、このような結果となったと判断できる。